京都・三条西殿跡（さんじょうにしどの）

1　所在地　京都市中京区烏丸通姉小路下ル場之町

2　調査期間　一九八一年（昭56）二月～五月

3　発掘機関　平安博物館

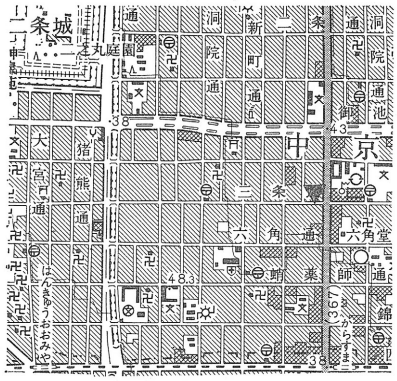
4　調査担当者　下條信行・植山　茂・定森秀夫

5　遺跡の種類　都城跡

6　遺跡の年代　平安時代～江戸時代

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

発掘地は、平安時代後期に藤原摂関家の邸宅であった三条西殿の東南角にあたる地点である。一九六九年に平安博物館が同所に二本のトレンチを入れていて、三条大路の北側側溝と烏丸小路の西側側溝と推定される溝が確認されていた。今回は、全面的に発掘を行い、主に中・近世の土壙・井戸・瓦溜などを多数検出したが、平安時代の遺構は極めて少なかった。



（京都東北部　2万5千分の1）

三条大路側溝としては、平安時代後期と推定される素掘りの溝がある。さらに、その南側に室町時代後半～江戸初期と推定される石組溝二本が重複して検出された。下段の石組溝は、石組の内側でさらに一段掘り下げられていて、埋土は暗青灰色粘質土となっていた。巡礼札はこの粘質土から出土し、室町時代後半と推定される。この上にさらに石組の溝があり、これは江戸初期まで使用されたと推定される。

8　木簡の釈文・内容

巡礼札は三枚検出され、それぞれ上端を尖り気味にし、孔を有している（番号は実測図の番号と一致する。なお、釈文は当館の藤本孝一氏に御願いした）。

(1)「西國卅三所順礼」　121×36×4　011

(2)「西國卅三所順礼同行二人」　141×42×4　011

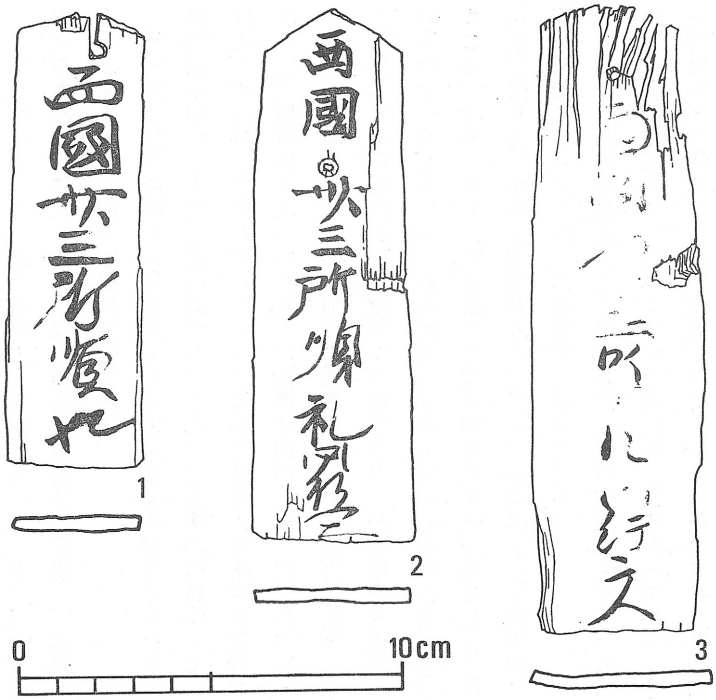
(3)「西國卅三所順礼同行二人」　166×45×4　011

この種の巡礼札は伝世品として、岩手県中尊寺、栃木県鑁阿寺、滋賀県石山寺などに残っている。なお、当遺跡のすぐ近くに西国第十八番札所である六角堂（頂法寺）がある（地図参照）。

9　関係文献

白石太一郎・伊藤玄三・近藤喬一『平安京三条西殿跡発掘調査報告』（『平安博物館研究紀要』3）一九七一年

1981年出土の木簡



定森秀夫「図版解説・三条西殿跡出土の巡礼札」（『古代文化』33―12）一九八一年（定森秀夫）